

京丹波町平成30年度農地利用状況調査説明会

(京都府船井郡京丹波町丹波・和知・瑞穂地区連絡会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化遊休農地の
発生防止・
解消新規参入の
促進その他
(農業委員会の
体制強化等)

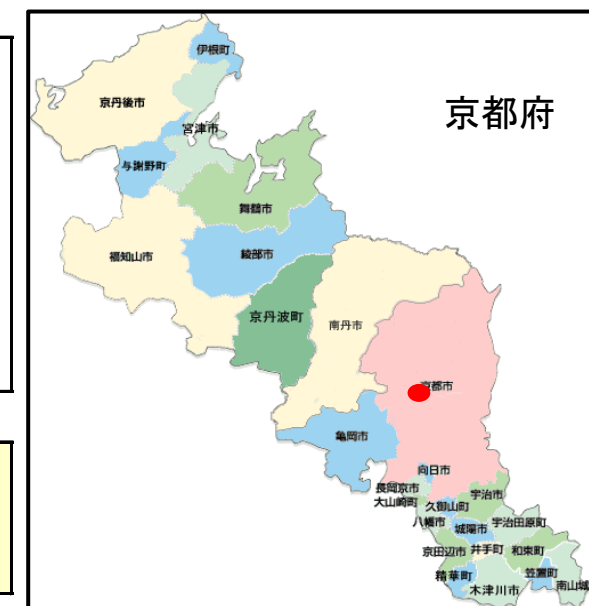
1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 30年10月29・30・31日
- 場 所: 丹波中央公民館・和知ふれあいセンター・山村開発センターみずほ
- 出席者: 京丹波町最適化推進委員・農業委員
農業委員会事務局
- 報告者: 塩 貝 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

- 京と縦貫道、国道9号、27号、173号が交わる交通の要所、淀川、由良川水系の分水界
- 主な産業は農業林業であり、ぶどう、稲作、酪農が中心、特産物に松茸、黒豆、ワインなど
- 過疎高齢化にともなう農業後継者不足、農地の荒廃など農業の基本となる事項、移住者の増加を望む



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 京丹波町では農地利用状況調査の説明会を、町内3地域に分割した地区連絡会議を活用し説明会を開催
- 最適化推進委員を設けてから初めての調査となり、農業委員とタッグを組み調査を行う
- 昨年までは農業委員を中心とした調査方法から最適化推進に委員との複数での新たな視点による調査の成果に期待が寄せられている
- 調査は11月1日～12月7日までとし12月農業委員会にて報告される
- 説明会では農地の分類(A・B)について概ねの基準が示され調査員の目あわせや様々な意見が交わされた

4 活動結果

- 情報・意見交換 **総時間5 時間**
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援